

概要

複数のフォルダ/ファイルに対して、複数の文字列/検索式を指定して、検索や置換をするツール

- 検索対象のフォルダやファイルを複数指定し、まとめて検索や置換ができます。
- 検索対象のファイルを、ワイルドカードや検索式を使ってフィルタリングできます。
- 検索する文字列を、ワイルドカードや検索式を使って記述できます。
- 検索する文字列や検索式を複数指定し、AND検索ができます。
- 改行を含む検索(複数行検索)が可能です。改行コードは CR/LF, CR, LF の3種類に対応しています。
- 指定した文字列を含まない行の検索が可能です。
- 文字列置換は、検索結果に対して置換結果のプレビューを表示した後、Applyボタンで一括置換を行います。
- 置換結果のプレビュー時に個別にチェックを外す事で、置換対象から除外できます。
- 文字列置換時に文字列だけでなく置換式を使って置換ができます。
- 文字列置換時にワイルドカードや検索式で任意文字が合致する部分を使って置換可能です。
- 複数文字列を指定したAND検索に対しても、文字列置換を実施できます。
- 置換結果を反映する際、元のファイルを自動でバックアップします。後から個別に復元可能です。
- 検索条件や検索結果、置換結果などをテキストファイルに保存し、再利用できます。

属性

\$Program:	Searcher
\$Filename:	Searcher.exe
\$Description:	Multi-Text Searcher
\$Company:	Nobuyuki Kobayashi
\$Copyright:	(C) Nobuyuki Kobayashi.

履歴

\$Version:
1.0.2015.0408: Released v0.90 仮リリース。
1.1.2015.0705: Released v1.00 リリース。
1.2.2015.0816: ShiftJISのダメ文字を含むパス名処理でのバグを修正
1.3.2015.1220: ファイルのプロパティ表記に対応。
1.4.2016.1120: 変数が多重で生成されていたのを修正。
1.5.2017.0814: シフトキーを押しながら起動すると、メインスクリーンの中央に表示される機能を追加。
1.6.2017.1019: スレッド終了処理とファイル検索(->FindFirstFileEx)を差し替え。
1.7.2018.0129: コピーをWindows APIから自前版に変更。
1.8.2018.0131: VC++2015に変更。
1.9.2018.0225: MAPファイルを生成するように変更。
1.10.2018.0613: リスト表示ダイアログを変更。
1.11.2018.0704: 置換処理を拡張。
1.12.2018.0720: 保存処理を拡張。
1.13.2018.1120: ログ窓を変更。
1.14.2019.0224: ライブラリを更新。
1.15.2019.0630: Stringライブラリを更新。
1.16.2020.0227: ライブラリを更新。
1.17.2020.0715: 内部文字コードをUTF8に変更。
1.18.2020.0715: 改行を含む文字列のペースト処理を修正。
1.20.2020.0717: バックアップデータの読み込みと削除をバックグラウンド処理に変更。
1.21.2020.0728: UTF8のマルチバイト文字のマッチング処理を拡張。
1.22.2020.0810: 公開用のReadMe等を更新。
1.23.2020.0811: RawLineFileを更新。
1.24.2020.0927: ファイルへの置換書き込み時の失敗を表示色に反映できていなかったバグを修正。
1.25.2020.0929: ファイル置換ができずにファイル名が.tmpになってしまうバグを修正。
1.26.2020.0930: ファイル置換書き込みのAPIをReplaceFileに変更。
1.27.2020.1021: 設定ファイルの文字コードを維持するように修正。
1.28.2020.1214: 設定ファイルのフォントにASCII以外が混じると文字化けする問題を修正。
1.29.2021.0811: ウィンドウ位置をPrimary Screenに移動するメニューを追加。
1.30.2021.1021: 検索文字列・置換文字列の編集中は黄色背景になるようにした。Applyボタンの生き死にを文字列変更と連動するようにした(誤反映防止)。
1.31.2022.0228: 起動時に接続されているディスプレイ外に表示されている場合はメインスクリーンの中央に再配置するようにした。
1.32.2022.0302: システムメニュー選択によるヘルプ表示を追加。
1.33.2022.0725: 保存パス指定ダイアログのオプション指定ができなかったのを修正した。また、保存形式も変更した。
1.34.2022.0726: 検索文字列や置換文字列で、入力した空白文字列をそのまま使用するように変更した。
1.35.2022.0727: リスト表示ダイアログで項目を編集する際、その項目の表示位置で編集できるようにした。
1.36.2022.0728: エディットボックスでクリップボードから貼り付けるメニュー項目を2種類に分けた。
1.37.2022.0823: Dupボタンを追加。
1.38.2023.0601: タイトルメニューにフォント選択等を追加。マニュアル指定方法を変更。
1.39.2023.0906: 編集領域でEnterキー押下時の動作を追加。Search/Preview時に編集中文字列を取り込むように変更。
1.40.2023.1020: ファイルのフィルター条件式にパスの指定を可能にした。
1.41.2023.1108: 検索した結果行に右クリックメニューを追加した。

1.42.2024.0503: コンパイラを更新。ライブラリを更新。言語ファイルを添付。
1.43.2024.0907: 言語自動選択機能を追加。タイトルメニューに言語選択項目を追加。

コマンドラインからの起動方法

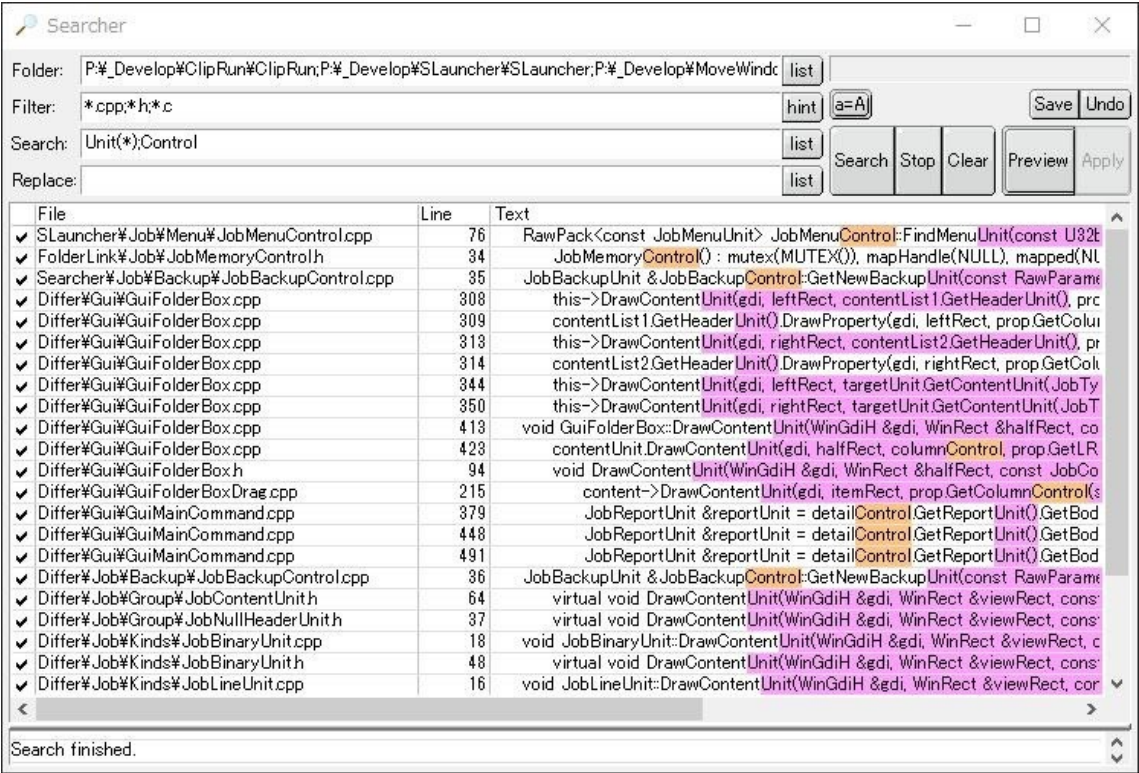
下記の引数を指定できます。

[-e 検索文字列/式]
[-f フィルタ]
[-p プロファイル]
[対象フォルダ/ファイル]

... 検索対象となる文字列/ワイルドカード/検索式を指定します。複数回の指定が可能です。(AND検索)
... 検索するファイル名をフィルタリングするワイルドカードや検索式を指定します。
... 検索条件の各パラメータを保存しておいたファイルから取得します。
... 検索するフォルダやファイルを指定します。複数個指定が可能です。

- 前回表示位置とサイズを記憶しますが、サブディスプレイに表示していてサブディスプレイが無くなった場合などは、メインスクリーンの中央に再配置します。
- ウィンドウメニューから「Move to primary screen.」を選択した場合も、メインスクリーンの中央に表示されます。

ダイアログの説明



メインダイアログ上のアイテム

Folder編集領域

listボタン

Filter編集領域

hintボタン

Search編集領域

listボタン

Replace編集領域

listボタン

進捗表示領域

a=Aボタン

Dupボタン

Saveボタン

Undoボタン

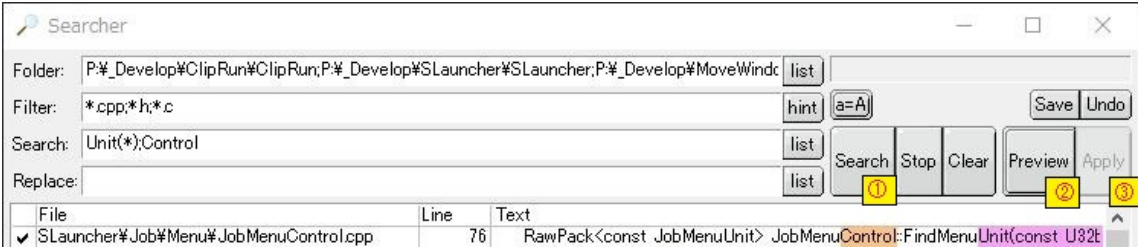
Searchボタン

... 検索するフォルダやファイルを指定します。セミicolon「;」で区切って複数個の指定が可能です。
... ファイルやフォルダをFolder編集領域にドロップすると、ドロップしたパス文字列に置き換わります。
... ファイルやフォルダをFolder編集領域の文字列に追加したい場合は、右側の listボタンでリスト表示をしてからドロップします。
... Folder編集領域で指定した複数のパスを、リスト表示ダイアログで編集します。
... 検索対象のファイル名のフィルタ条件式を指定します。セミicolon「;」で区切って複数個指定が可能です。(OR条件)
... ヒントメニューを表示し、過去に入力したフィルター条件式から候補を選択して入力できます。
... ヒントメニューの「Append to hint」項目を選択すると、現在編集領域に記述している文字列を表示候補として設定ファイルに追加します。
... 検索対象とする文字列を、後述の検索式やワイルドカードを含んだ文字列で指定します。「;」で区切って複数指定できます。(AND条件)
... 検索開始後に文字列を変更すると、編集領域の背景が黄色くなります。この変更は再度検索を開始するまで反映されません。
... Search編集領域で ENTER キーを押下すると、Searchボタンを押下した場合と同様に検索を開始します。
... Search編集領域で指定した複数の検索式を、リスト表示ダイアログで編集します。
... 検索で合致した文字列に対して、置換後の文字列や後述の置換式を記述できます。「;」で区切って複数指定できます。
... 検索式を複数記述してAND検索した場合は置換式も複数記述できます。前から順に検索式と対応させて置換プレビューが実施されます。
... 検索式と置換式を複数記述する場合、置換式の方が少ない場合は対応する検索式の合致文字列までに置換プレビューが実施されます。
... 置換プレビュー実施後に文字列を変更すると、編集領域の背景が黄色くなります。この変更は再度プレビューするまで表示に反映されません。
... Replace編集領域で ENTER キーを押下すると、Previewボタンを ON した場合と同様に置換プレビューの表示を開始します。
... Replace編集領域で指定した置換文字列を、リスト表示ダイアログで編集します。
... 右上の空欄の枠です。検索実行中に検索している最上位フォルダを表示します。処理が遅くならないように間引いて表示します。
... [ON/OFFボタン] ONの場合、英大文字と英小文字を同一視します。
... 現在ダイアログで指定しているパラメータを引き継いで、もう1つ別のSercherダイアログを開きます。
... 検索パラメータや検索結果、置換結果などをテキストファイルに保存します。保存パス指定ダイアログが開き、保存形式を指定します。
... 過去に置換を実施した対象ファイルを元に戻すためのバックアップ履歴ダイアログを表示します。
... 検索を開始します。

Stopボタン	... 検索を中断します。
Clearボタン	... 検索結果をクリアします。
Previewボタン	... [ON/OFFボタン] ONの場合、リスト表示領域の検索結果ごとに、置換した場合の結果をプレビューします。ファイルへの反映は Apply ボタンで実施します。 ... Previewボタンは検索開始前にONにしても、検索開始後にONにしても問題ありません。
Applyボタン	... プレビュー表示されている置換結果をファイルに反映します。チェックマークを OFF した項目は反映しません。 ... 置換結果をファイルに反映する際、元のファイルを自動でバックアップします。
リスト表示領域	... 検索結果や置換プレビューをリスト表示します。置換プレビューを表示する場合は、上段が検索結果、下段がプレビューになります。 ... 各項目の先頭にあるチェックマークをOFFすると、その項目はApplyボタン押下時のファイルへの置換結果の反映を行いません。 ... 複数項目を選択し、SHIFTキーを放し、選択範囲内のチェックマークをクリックすると、その項目のチェック状態を反転し、選択全項目の状態を揃えます。 ... 複数項目を選択し、SHIFTキーを放し、選択範囲外のチェックマークをクリックすると、その項目だけチェック状態を反転します。 ... リスト表示領域で項目を選択しダブルクリックすると、ファイルが開きます。(設定ファイルの「外部ツールの設定」を参照) ... 黄色背景の項目は、複数行検索で置換プレビューした際に、合致行が重複する項目です。(「検索結果が重なる場合の置換動作」を参照) ... 薄赤背景の項目は、検索時に合致したが行が長すぎた項目か、置換結果をファイルに反映する際にエラーが発生した項目です。 ... 検索時に合致したが行が長すぎた項目については、後述の「検索時の行の最大サイズ」を参照してください。 ... 薄赤背景の項目を選択すると、ログ表示領域でエラー履歴が選択表示されます。 ... ログ表示領域の大きさを変更するためのバーです。ドラッグしてマウスを動かすと、ログ表示領域の大きさが変わります。
ログ領域変更バー	
ログ表示領域	... SearchやApplyの処理状態やエラー履歴を表示します。エラー履歴は薄赤色背景で表示されます。

文字列置換の手順

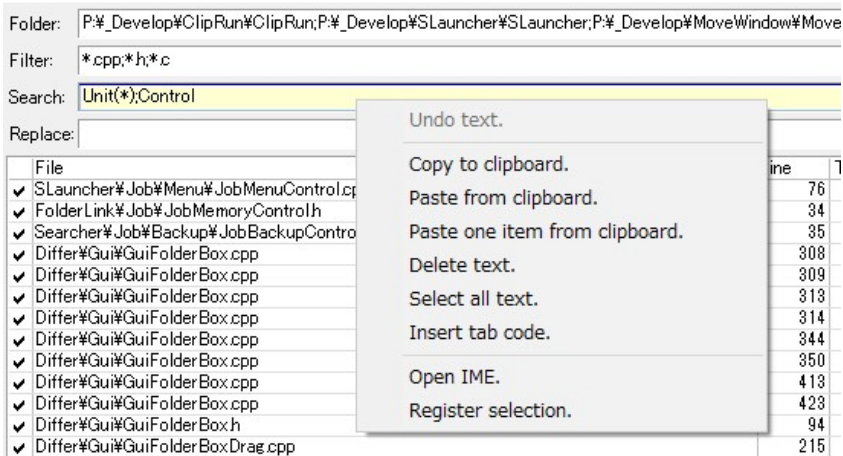
- 文字列置換をする場合は、①検索を実施、②Previewボタンで置換結果のプレビューを実施、③ Apply ボタンで対象のファイルに反映、という手順になります。
- Previewボタンは ON/OFF 切り替えボタンになっていて、検索の開始前に ON しても、検索実施中や実施後に ON しても問題ありません。
- 検索結果の項目ごとに先頭のチェックマークを OFF すると、Apply での反映から除外できます。複数項目を選択してマウスクリックすると、まとめて変更できます。
- 検索してリスト表示された後で、元のファイルの更新日時が変更されていた場合は、Apply押下時に置換結果の反映を行いません。
- ファイルに置換結果を反映する際、ファイル名の末尾に「.tmp」が付いた名前のファイルに一旦結果を保存した後、元のファイルとの置き換えを実施します。
- 何らかのWindows要因で置換対象のファイルの書き込みや置き換えに失敗した場合、ファイル名の末尾に「.tmp」が付いた名前のファイルが残る可能性があります。



文字列編集領域の右クリックメニュー項目

Folder編集領域,Filter編集領域,Search編集領域,Replace編集領域などの編集ボックスでは、マウスの右クリックで下記のメニュー項目が使用できます。

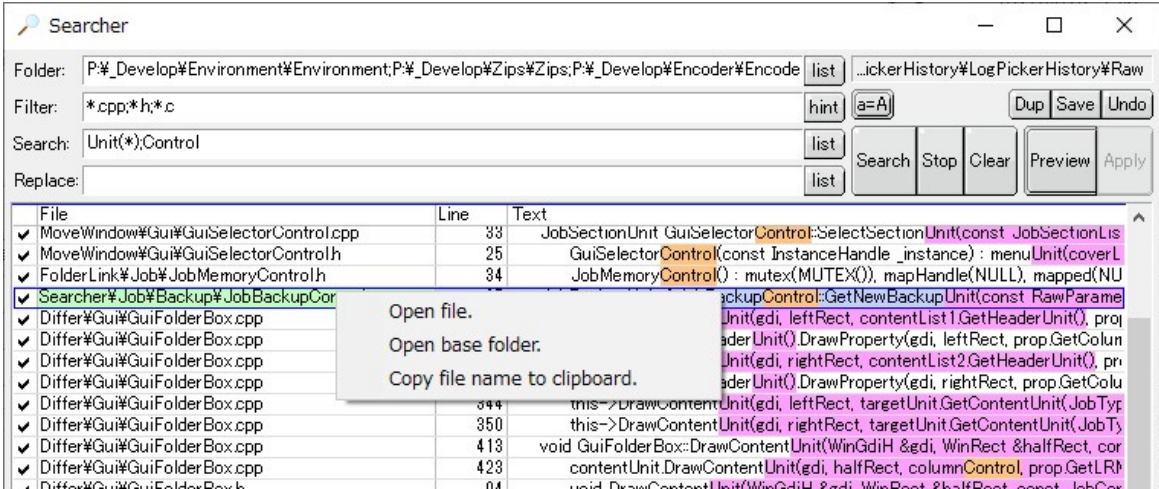
Undo text.	... 削除や置換した文字列を元に戻します。
Copy to clipboard.	... 選択した文字列をクリップボードにコピーします。
Paste from clipboard.	... クリップボード内の文字列を選択した文字列と置き換えて貼り付けます。
Paste one item from clipboard.	... クリップボードから貼り付ける際に、区切り文字「;」などもエンコードして 1 項目として貼り付けます。
Delete text.	... 選択した文字列部分を削除します。
Select all text.	... 全文字列を選択状態にします。
Insert tab code.	... タブ文字を入力します。
Open IME.	... IME を開きます。
Register selection.	... 選択文字列を IME に登録します。



リスト表示領域の右クリックメニュー項目

リスト表示領域では、マウスの右クリックで下記のメニュー項目が使用できます。

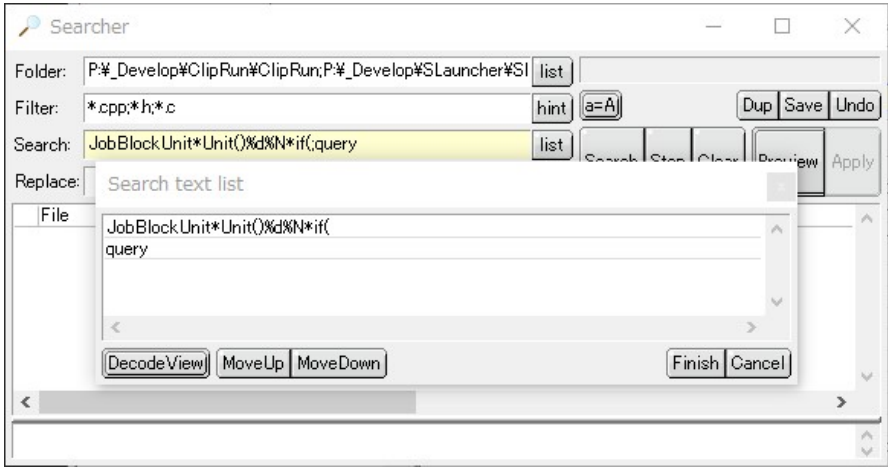
- Open file.
- Open base folder.
- Copy file name to clipboard.
- ... 選択した最初の行のファイルを開きます。
- ... 選択した最初の行の置かれたフォルダーをエクスプローラーで開きます。
- ... 選択した最初の行のファイル名をクリップボードにコピーします。



リスト表示ダイアログ

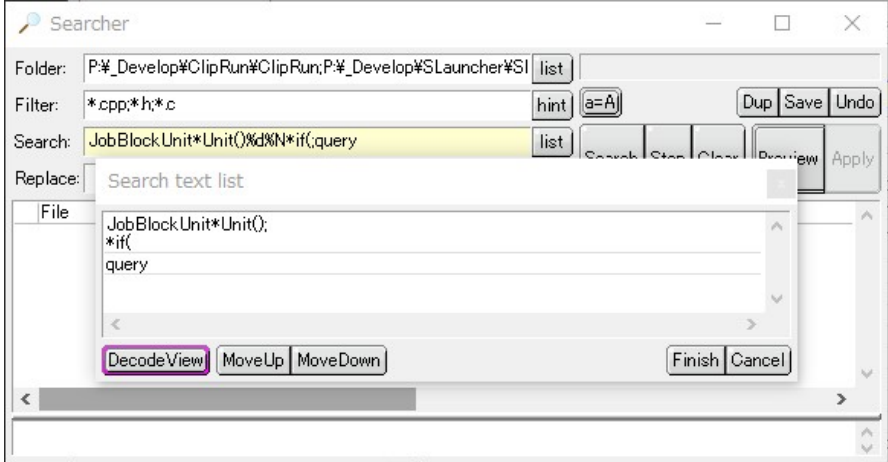
リスト表示ダイアログは、Folder編集領域、Search編集領域、Replace編集領域の右側のlistボタンを押下すると表示されます。「;」区切りの個別の文字列を編集できます。

- DecodeViewボタン
- MoveUpボタン
- MoveDownボタン
- ... [ON/OFFボタン] ONの場合、リスト領域の各項目で改行などのエスケープ文字を使用している場合は、デコードされた表示状態になります。
- ... リスト領域で選択した項目を 1 つ上の項目と入れ替えます。
- ... リスト領域で選択した項目を 1 つ下の項目と入れ替えます。



リスト表示ダイアログのDecodeView表示

DecodeViewボタンが ON の場合、エスケープ文字がデコードされた表示状態で編集できます。上記例では、文字列中の「%d」「%N」が実際の「;」と改行として表示されています。

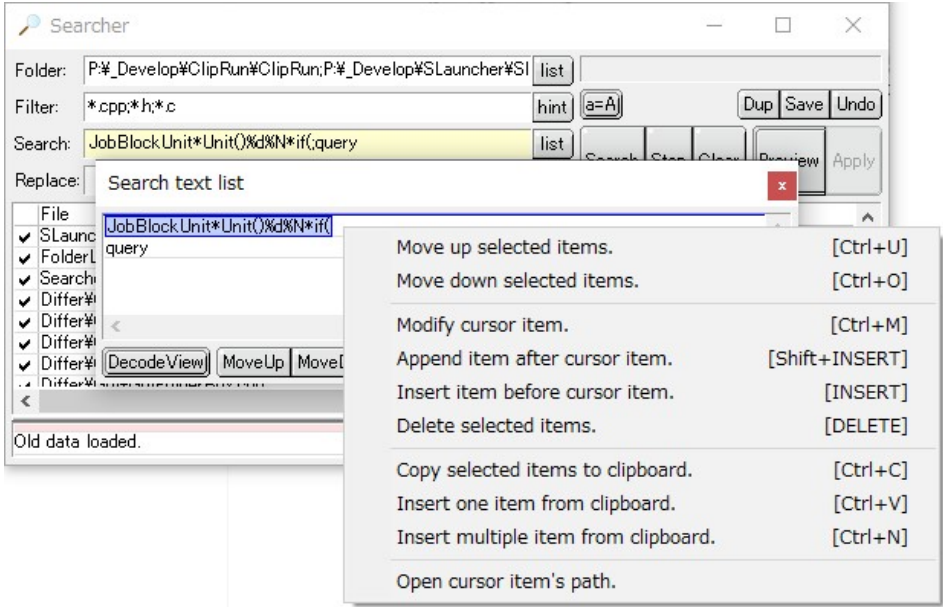


リスト表示ダイアログの右クリックメニュー項目

右クリックメニュー項目は下記の通りです。

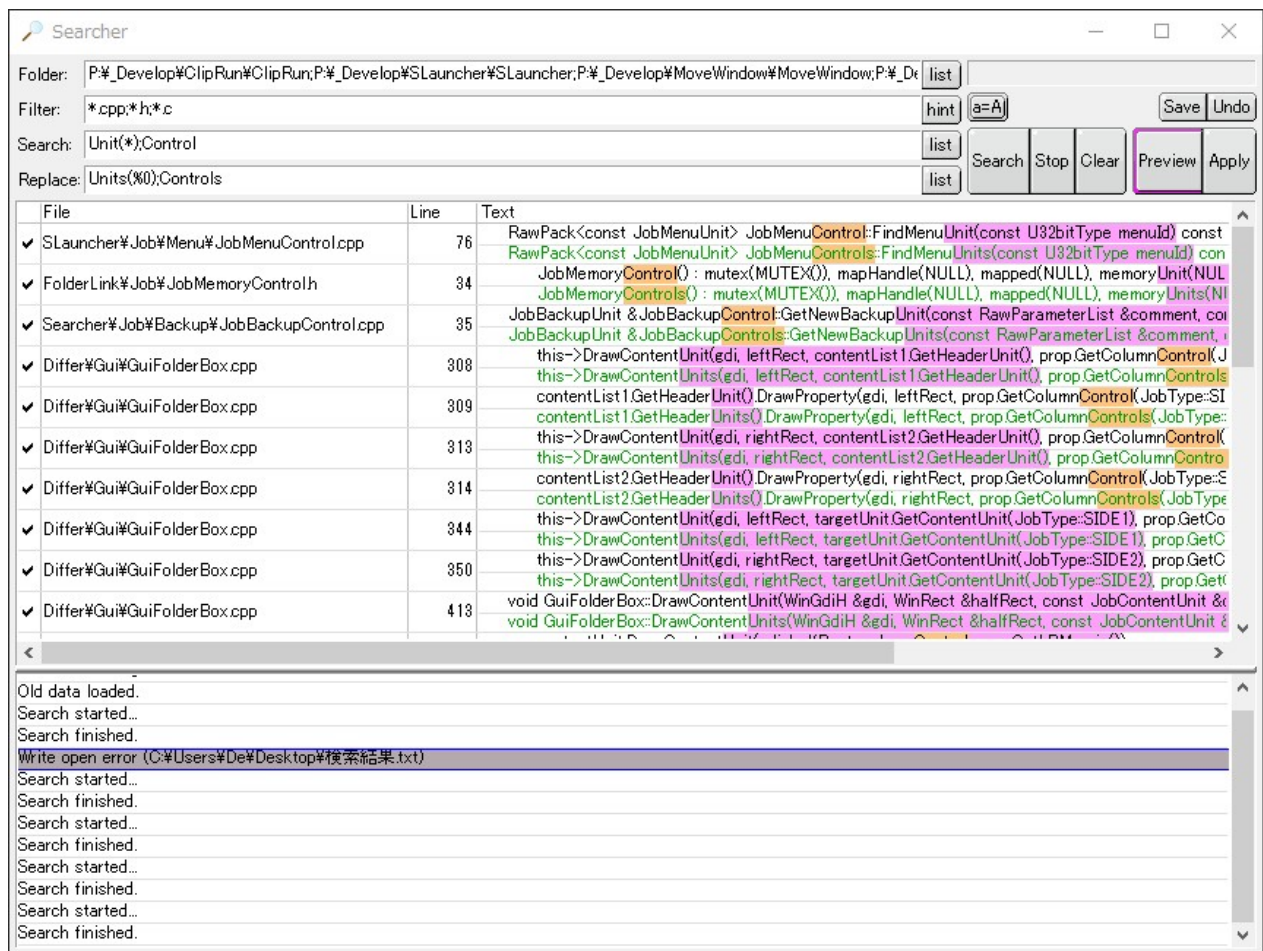
Move up selected items.	... リスト領域で選択した項目を 1 つ上の項目と入れ替えます。
Move down selected items.	... リスト領域で選択した項目を 1 つ下の項目と入れ替えます。
Modify cursor item.	... リスト領域の選択した項目を編集状態にします。
Append item after cursor item.	... リスト領域の選択した項目の後に新規項目を追加し、編集状態にします。
Insert item before cursor item.	... リスト領域の選択した項目の前に新規項目を追加し、編集状態にします。
Delete selected items.	... リスト領域で選択した項目を削除します。
Copy selected items to clipboard.	... リスト領域で選択した項目をクリップボードにコピーします。
Insert one item from clipboard.	... クリップボード文字列を 1 項目として、リスト領域の選択した項目の前に追加します。
Insert multiple lines from clipboard.	... クリップボード文字列を区切り文字で分けた複数項目として、リスト領域の選択した項目の前に追加します。
Open cursor item's path.	... リスト領域で選択した項目がフォルダやファイルのパス文字列の場合に、エクスプローラで開きます。

- 1 項目を選択した状態で同じ項目を再度クリックするか、ダブルクリックすると、項目が編集状態になります。
- パス名リストの場合は、リスト表示領域にファイルやフォルダをドロップすると、リスト領域にドロップしたパスが追加されます。



ログ表示領域

- ログ表示領域には、SearchやApplyの処理状態やエラー履歴(薄赤色背景)を表示します。
- ログ表示領域の上のバーをドラッグしてドラッグしてマウスを動かすと、ログ表示領域の大きさが変わります。

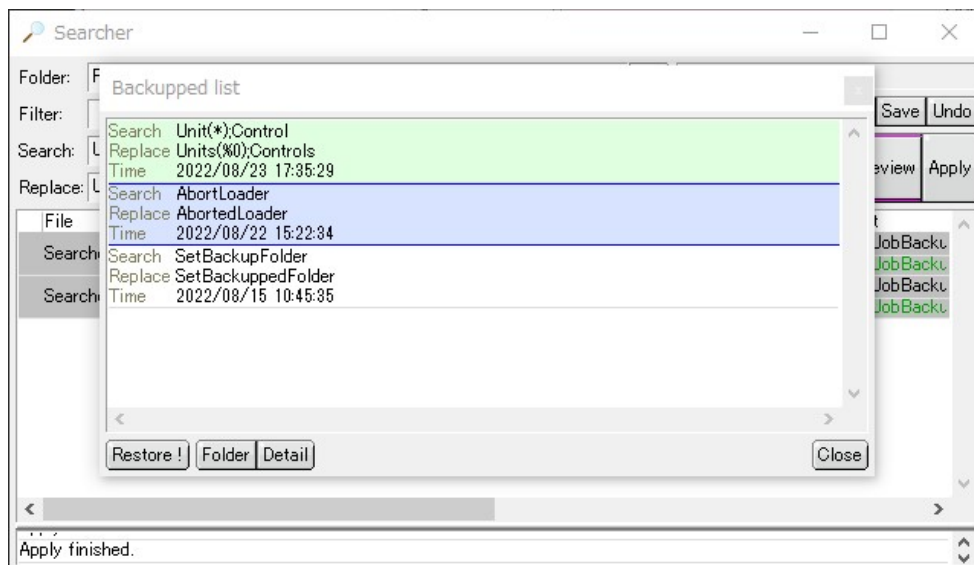


バックアップ履歴ダイアログ

バックアップ履歴ダイアログは、過去に実施した置換の反映を取りやめて元に戻すためのダイアログです。

- Restore ! ... 選択した項目でバックアップしたファイルを一括してリストアします。複数選択が可能です。
- Folder ... 選択した項目のバックアップデータが格納されているフォルダを開きます。
- Detail ... 選択した項目の個々のファイルのリストを表示します。

- リスト表示領域に過去の履歴が表示されるので、元に戻したい場合は、項目を選択してリストアを指定します。
- 履歴には、本プログラムの1回の置換(Apply)操作が、1行で表示されます。ファイルごとに表示したい場合は Detail ボタンを押下します。
- 薄緑色背景の項目は、本プログラム起動後に実施した置換反映の履歴です。白色背景の項目は、前回起動時 (以前を含む) 過去の置換反映履歴です。



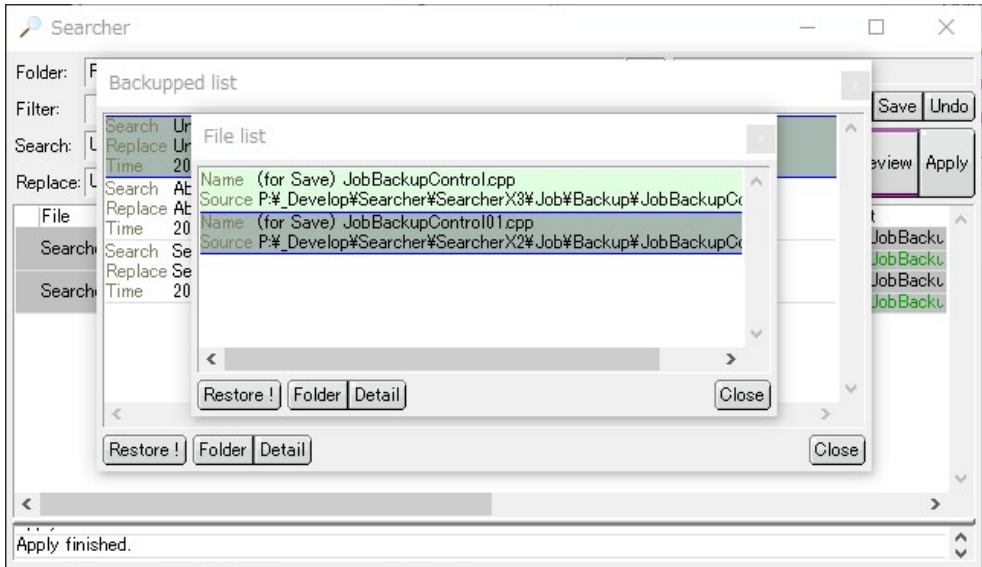
バックアップ履歴ダイアログ (ファイルリスト表示)

バックアップ履歴ダイアログのファイルリスト表示は、1回の反映処理でバックアップした内容を、ファイルごとに元に戻すためのダイアログです。

- Restore ! ... 選択したファイルをリストアします。

Folder	... 選択したファイルが格納されているフォルダを開きます。
Detail	... 選択したファイルを開きます。

- リスト表示領域にバックアップしたファイルのリストが表示されるので、項目を選択してリストアボタンを押下します。
- 薄赤色背景はバックアップ以降に対象のファイルが更新された事を示します。
- 薄緑色背景はバックアップしたファイルと元のファイルの日時が異なる事を示します。(リストアしていない状態)
- 白色背景はバックアップしたファイルと元のファイルの日時が同じ事を示します。(すでにリストアされた状態)
- 灰色背景はバックアップデータが保存されていない事を示します。(バックアップ時にツールで保存しない設定をしていた場合)

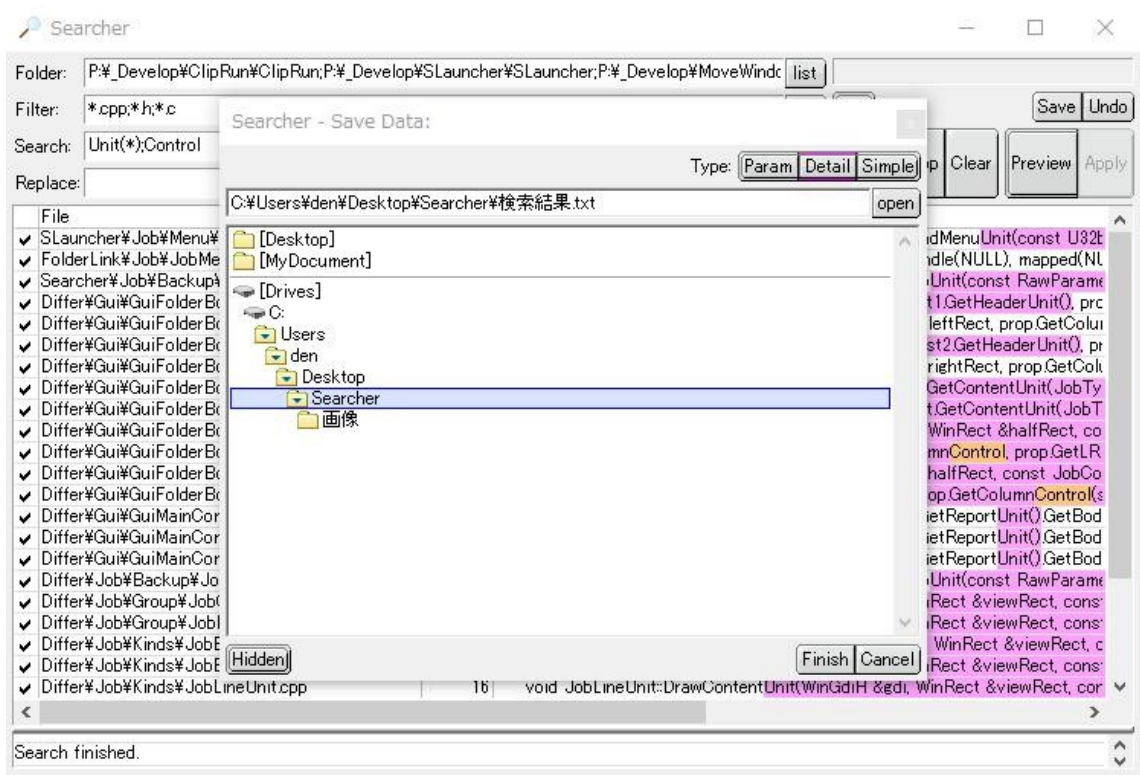


保存パス指定ダイアログ

保存パス指定ダイアログは、検索結果をファイルに保存する際に、ファイルパスとオプションを指定するダイアログです。

Param	... [SELECTボタン] ONの場合、検索パラメータのみを保存します。
Detail	... [SELECTボタン] ONの場合、検索パラメータと、検索結果、置換結果、置換反映結果を含めて保存します。
Simple	... [SELECTボタン] ONの場合、保存内容は Detail と同様ですが、検索結果を他のテキストエディタ等で利用可能な形式で保存します。
Hidden	... [ON/OFFボタン] ONの場合、非表示のフォルダやファイルをリストに表示します。

- 保存形式は Param, Detail, Simple の 3 形式が選択可能です。上部のボタンで選択します。
- Param と Detail の形式で保存した場合、保存したファイルを本プログラムのリスト表示領域にドロップすると、指定したパラメータが再利用ができます。



パスのフィルタ条件式

- フィルタ条件式は、後述のワイルドカードや検索式の文法に従います。

- 指定した条件式がパス文字を含まない場合は、パスを除くファイル名の全体と合致したものを検索対象とします。
- 条件式に「¥」か「/」を含む場合はパス区切りと判断され、パス部分に対しても合致判断を行います。パス部分は上位フォルダが省略可能です。
- パス部分にも検索式が使用できます。例えば「Job¥*.cpp」と指定した場合は c:¥Develop¥Seacher¥Job¥Log¥JobLogServer.cpp などが合致します。
- 複数の条件式で「;」で区切って指定可能です。複数指定した場合は OR条件となり、いずれかに合致するファイルを検索対象とします。
- 条件式で「.」と指定すると、拡張子のないファイル名には合致しなくなる事に注意してください。(拡張子がないファイルは「*」で合致します)
- Filter編集領域右側のhintボタンを押下すると、過去に入力したフィルター条件式から選択して入力できます。
- ヒントメニューの「Append to hint」項目を選択すると、現在指定している文字列を設定ファイルに追加保存するので、次回に利用できます。

Folder: P¥_Develop¥Searcher¥SearcherXXX

Filter: *.cpp;*.h;*.c

Search: Append to hint.

Replace: *.cpp;*.h;*.c

list

hint

list

list

File	Line	Text
✓ SearcherXXX¥Gui¥GuiViewBox.cpp	200	JobBlockUnit &blockUnit = query.GetUnit(); if (blockUnit.IsActivated() == false) {
✓ SearcherXXX¥Job¥JobBlockList.cpp	42	JobBlockUnit &unit = query.GetUnit(); if (unit.GetFilePath() != filePath)
✓ SearcherXXX¥Job¥JobBlockList.cpp	57	JobBlockUnit &unit = query.GetUnit(); if (unit.GetFilePath() != filePath)
✓ SearcherXXX¥Job¥JobFileApplier.cpp	46	JobBlockUnit &blockUnit = query.GetUnit(); if (blockUnit.IsChecked() && blockUnit.IsOverwrap() == fa
✓ SearcherXXX¥Job¥JobFileApplier.cpp	72	JobBlockUnit &blockUnit = query.GetUnit(); if (blockUnit.IsApplied()) {
✓ SearcherXXX¥Job¥JobReplacer.cpp	32	JobBlockUnit &blockUnit = query.GetUnit(); if (blockUnit.CheckReplaceTarget(record) && blockUnit.G

検索式の記述方法

- 検索式には、字面指定、ワイルドカード指定、詳細指定の3つの方法があります(後述)。
- 複数の検索式で「;」で区切って指定可能です。複数指定した場合は AND条件となり、すべてに合致した行のみを表示します。
- 例えば、「mouse; point」は、「mouse」と「point」を含む行を検索します。
- 「;」や空白文字・改行文字などを含む検索をしたい場合は、後述のエスケープ表記(「%d」や「%s」「%N」)を使います。
- 改行を含む検索ができます。下記の例は、複数行検索 (検索式中に %n %r %N などの改行を含む指定をした場合) の例です。

Folder: P¥_Develop¥Searcher¥SearcherXXX

Filter: *.cpp;*.h;*.c

Search: query*Unit()%(d%N*if (.JobBlockUnit

Replace:

list

hint

list

list

File	Line	Text
✓ SearcherXXX¥Gui¥GuiViewBox.cpp	200	JobBlockUnit &blockUnit = query.GetUnit(); if (blockUnit.IsActivated() == false) {
✓ SearcherXXX¥Job¥JobBlockList.cpp	42	JobBlockUnit &unit = query.GetUnit(); if (unit.GetFilePath() != filePath)
✓ SearcherXXX¥Job¥JobBlockList.cpp	57	JobBlockUnit &unit = query.GetUnit(); if (unit.GetFilePath() != filePath)
✓ SearcherXXX¥Job¥JobFileApplier.cpp	46	JobBlockUnit &blockUnit = query.GetUnit(); if (blockUnit.IsChecked() && blockUnit.IsOverwrap() ==
✓ SearcherXXX¥Job¥JobFileApplier.cpp	72	JobBlockUnit &blockUnit = query.GetUnit(); if (blockUnit.IsApplied()) {
✓ SearcherXXX¥Job¥JobReplacer.cpp	32	JobBlockUnit &blockUnit = query.GetUnit(); if (blockUnit.CheckReplaceTarget(record) && blockUni

先頭文字による検索式の種別

- 検索式の先頭に「!」を付加した場合は、「!」以降の検索式を含まない場合に合致したと判定する検索を行います。
- 検索式の先頭に「\$」を付加した場合は、字面指定(後述)での検索(記号等をそのままの文字列で検索)を行います。
- 検索式の先頭に「@」を付加した場合は、詳細指定(後述)での検索を行います。
- 検索式の「!」を除く先頭が「\$」「@」でない場合は、ワイルドカード指定(後述)での検索を行います。
- 「!」と「\$」を両方付加する場合は「!\$」、「!」と「@」を両方付加する場合は「!@」と指定します。

字面指定

- 検索式の先頭に「\$」を付加した場合は、字面指定での検索を行います。
- 字面指定では、「\$」以降の文字列をそのままの文字の列として検索します。字面指定では、エスケープ表記を含める事ができません。
- 「*」「?」「%」などの記号をそのままの文字として扱いますが、検索式を区切る「;」と空白文字は含める事ができません。

ワイルドカード指定

- 検索式の「!」を除く先頭が「\$」「@」でない場合は、ワイルドカード指定での検索を行います。
- 「*」は0個以上の任意文字、「?」は1個の任意文字と合致します。どちらも改行を含みません。漢字や記号も1文字になります。
- 「*」「?」「%」などの記号を含む検索をしたい場合は、エスケープ表記(後述)を使います。
- 検索式中に %n %r %N などの改行を含む指定をした場合、改行の個数分の複数行を対象として検索を行います。

詳細指定

- 検索式の先頭に「@」を付加した場合は、詳細指定での検索を行います。
- 詳細指定で意味を持つ記号を含む検索をしたい場合は、エスケープ表記(後述)を使います。
- 検索式中に %n %r %N などの改行を含む指定をした場合、改行の個数分の複数行を対象として検索を行います。
- 「*」は直前の文字 0 個以上、「+」は直前の文字 1 個以上、と合致します。
- 「.」は 1 個の任意文字と合致しますが改行は含みません。「.*」とすると、0 個以上の任意文字と合致します。
- 「[」と「]」で挟まれた部分(ブロック)は挟まれた文字の中の 1 文字、と合致します。
- ブロック内で「-」が指定されると、その前後の文字間のすべての文字と合致します。
- 例えば、「[A-Z]」は大文字のアルファベットの 1 文字、「[A-Za-z]」はアルファベットの 1 文字と合致します。
- 範囲指定は全角文字でも使用できますが、文字コードベースで挟まれる範囲となります。
- ブロック内では、「a=A」ボタンでの指定に寄らず、大文字と小文字を区別します。
- ブロック内では、エスケープ表記も使用できます。しかし、改行(%n %r %N)は含めてはいけません。
- 例えば、「[A-Z%]]」は大文字のアルファベットの 1 文字が「]」と合致します。
- ブロックの先頭文字が「^」の場合は、ブロック内で指定される文字以外の 1 文字と合致します。改行は合致しません。
- 例えば、「[^A-Z]」は大文字のアルファベットではない 1 文字(改行を除く)と合致します。

エスケープ表記

エスケープ表記には下記のものがあります。

%s	... 半角スペース
%t	... タブ文字
%r	... CarriageReturn (0x0D)
%n	... LineFeed (0x0A)
%N	... 改行 (0x0D, 0x0A, 0x0D+0x0Aのいずれか)
%e	... パーセント文字
%d	... デリミタ (セミコロン)
%q	... 二重引用符
%@	... アットマーク
%*	... アスタリスク
%?	... クエスチョンマーク
%.	... ピリオド
%+	... プラス
%[... 左角括弧
%]	... 右角括弧
%^	... カレット
%-	... マイナス
%0～%9	... 置換時に、検索式中の * や ? と合致した文字列をそのまま使いたい場合に使用します (後述)。

置換式の記述方法

- 置換式中では上述のエスケープ表記が使用可能です。
- 置換式の先頭に「\$」を付加した場合は、字面指定での置換を行います。この場合はエスケープ表記を使用できません。
- 複数の置換式を「;」で区切って指定可能です。複数指定した場合は複数指定した検索式と前から順に対応させて置換します。
- 例えば「AA; BB」で検索し「CC; DD」に置換する場合、「AA」と「BB」を含む行が合致し、「AA」を「CC」に、「BB」を「DD」に置換します。
- 複数指定した検索式より置換式の方が少ない場合は、記述した分だけを置換します。
- 例えば「AA; BB」で検索し「CC」に置換する場合、「AA」と「BB」を含む行が合致し、その行の「AA」を「CC」に置換します。
- 例えば「//ABCDE」の行に対し「;ABC」で検索し「」に置換した場合、「」が行全体に合致するため、空の行に置換されます。
- 置換式中で %N を指定した場合は、対応する検索式で使われた改行コード(CR/LF, CR, LFのいずれか)が使用されます。
- 置換式中で %0～%9 を指定した場合は、検索式中の不確定要素に合致した部分に置き換わります。先頭から順に 0～9 番目までを使用できます。
- ワイルドカード指定の場合の不確定要素は、「*」と「?」です。
- 例えば「ADEG」で検索し「ABCDEFG」が合致し「%1_%0」に置換する場合、「F_BC」に置換します。
- 詳細指定の場合の不確定要素は、<文字やブロック>*, <文字やブロック>+, <ブロック>、「.」です。
- 例えば「@A.*DE[A-Z]G」で検索し「ABCDEFG」が合致し「%1_%0」に置換する場合、「F_BC」に置換します。

Searcher

Folder: P:_Develop\Searcher\SearcherXXX list

Filter: *.cpp;*.h;*.c hint a=A

Search: query*Unit()\\
*if (.JobBlockUnit list Search Stop

Replace: query%0Units()\\
*if (.JobBlockUnits list

File	Line	Text
SearcherXXX\Gui\GuiViewBox.cpp	200	JobBlockUnit &blockUnit = query.GetUnit(); if (blockUnit.IsActivated() == false) { JobBlockUnits &blockUnit = query.GetUnits(); *if (blockUnit.IsActivated() == false) {
SearcherXXX\Job\JobBlockList.cpp	42	JobBlockUnit &unit = query.GetUnit(); if (unit.GetFilePath() != filePath) JobBlockUnits &unit = query.GetUnits(); *if (unit.GetFilePath() != filePath)
SearcherXXX\Job\JobBlockList.cpp	57	JobBlockUnit &unit = query.GetUnit(); if (unit.GetFilePath() != filePath) JobBlockUnits &unit = query.GetUnits(); *if (unit.GetFilePath() != filePath)
SearcherXXX\Job\JobFileApplier.cpp	46	JobBlockUnit &blockUnit = query.GetUnit(); if (blockUnit.IsChecked() && blockUnit.IsOverwrap() == false && blockUnit.IsOverwrap() JobBlockUnits &blockUnit = query.GetUnits(); *if (blockUnit.IsChecked() && blockUnit.IsOverwrap() == false && blockUnit.IsOverwrap() JobBlockUnit &blockUnit = query.GetUnit();
SearcherXXX\Job\JobFileApplier.cpp	72	if (blockUnit.IsApplied()) { JobBlockUnits &blockUnit = query.GetUnits(); *if (blockUnit.IsApplied()) {
SearcherXXX\Job\JobReplacer.cpp	32	JobBlockUnit &blockUnit = query.GetUnit(); if (blockUnit.CheckReplaceTarget(record) && blockUnit.GetReplaceChecker() JobBlockUnits &blockUnit = query.GetUnits(); *if (blockUnit.CheckReplaceTarget(record) && blockUnit.GetReplaceChecker()

検索結果が重なる場合の動作

- 1つの検索式に対して、1行内に複数の合致箇所がある場合は、結果表示欄で1項目内にまとめて色付け表示します。
- 1つの検索式に対して、1行内の複数の合致箇所が重なる場合は、最初の合致箇所のみを合致として検出します。
- 例えば「ABABA」から「ABA」を検索する場合、先頭の「ABA」箇所のみを合致として検出します。
- 複数の検索式を指定したAND検索で、それぞれの合致箇所が重なる場合は、どちらも合致として検出します。
- 例えば「ABCDEF」から「ABCD」;「DEF」を検索した場合は、「ABCD」;「DEF」をそれぞれの検索式に対する合致として検出します。
- 複数行検索(改行を含めた検索式での検索)の場合は、上記の1行内、を1つの複数行内、に読み替えます。
- 複数行検索で、合致した2つ以上の複数行に同じ行が含まれる(一部が重なる)場合は、どちらの複数行も検出し、結果表示欄で別項目で表示します。
- 例えば「A<改行>A<改行>A」から「A%NA」を検索する場合、1~2行目と2~3行目をそれぞれ合致として検出し、別項目として表示します。

検索結果が重なる場合の置換動作

- 1つの検索式に対して、1行内に複数の合致箇所がある場合は、それぞれを置換対象とします。
- 1つの検索式に対して、1行内の複数の合致箇所が重なる場合は、最初の合致箇所のみが置換対象となります。
- 例えば「ABABA」から「ABA」を検索し「ZZZ」に置換する場合、「ZZZBA」に置換されます。
- 複数の検索式を指定したAND検索で、それぞれの合致箇所が重なる場合も、最初の合致箇所のみが置換対象となります。
- 例えば「ABCDEF」から「ABCD;DEF」を検索し「DDD;ZZZ」に置換する場合は、「DDDEF」に置換されます。
- 複数行検索で、合致した2つ以上の複数行に同じ行が含まれる(一部が重なる)場合は、最初の合致項目だけが置換対象となります。
- 複数行検索で、合致した2つ以上の複数行に同じ行が含まれる場合は、どちらも置換プレビューがされますが、2番目以降は黄色背景で表示されます。
- 黄色背景で表示された項目も、最初の項目のチェックを外すと、置換対象になります。
- 例えば「A<改行>A<改行>A」から「A%NA」を検索し「ZZZ」に置換する場合、1~2行目が置換され、2~3行目は置換されず黄色背景で残ります。
- 例えば「A<改行>BA<改行>B」から「A;A%NB」で検索し「Z」に置換する場合、置換箇所は重なりませんが2番目は無視され、「Z<改行>BA<改行>B」になります。

検索時の行の最大サイズ

- 1 行の最大サイズを超えた行に対しては、文字列を検索できません。
- 1 行の最大サイズを超えると、ログにエラーが記録されます。
- 1 行の最大サイズは設定ファイルで指定できます。MaxLineLengthを参照してください。
- 1 行の最大サイズを大きく過ぎると、メモリが確保できなかったり、パフォーマンスが落ちる場合があります。

設定ファイルの記述

本プログラムと同じフォルダにある、<プログラム名>.ini という名称のファイルを設定ファイルとして読み込みます。

共通項目

[Common]	
Program=Searcher	... Searcherの設定ファイルである事を指定します。
GuiProfile=xxxx	... 表示に関するパラメータやウィンドウの位置情報などを保存するファイルを、別のファイルから読み込みます。
ConfigFile=xxxx	... 動作設定情報を記述するファイルを、別のファイルから読み込みます。
LanguageFile=xxxx	... GUIの表示言語設定ファイルを指定します。未指定の場合は LanguageFile.ini が使用されます。
Language=xxxx	... LanguageFile内の使用するセクション名を指定します。ユーザー選択設定がある場合はそちらを優先します。

- Common項目のパス指定で相対パスを指定した場合は、プログラムの置かれたフォルダからの相対に置き換えられます。
- Common項目のパス指定内で「\$(User)」を用いた場合は、ユーザの AppData¥Roaming¥プログラム名 に置き換えられます。

動作設定

プログラムの動作に関する設定を指定します。

フィルター式のヒント設定

hintボタン押下時に表示されるヒントを指定します。

```
[FilterHint]
Hint=*.txt
Hint=*.h;*.cpp;*.c;*.rc
```

外部ツールの設定

検索で合致した行をダブルクリックした際に起動される外部ツール、に関するパラメータを指定します。

```
[Tool]
Default=セクション名      ... 未指定の拡張子のファイルを開くツールを記述するセクション名を指定します。
拡張子=セクション名      ... 指定した拡張子のファイルを開くツールを記述するセクション名を指定します。
：

[セクション名]
Command=xxxx             ... Viewer項目で指定された拡張子のファイルを開く外部ツールを指定します。
Parameter=xxxx           ... 外部ツールのパス名を指定します。
Directory=xxxx           ... 外部ツールのコマンドライン引数を指定します。「%s」がファイル名「%n」が行番号に置換されます。
ShowStatus=Normal        ... 外部ツール起動時の作業フォルダを指定します。
                          ... ウィンドウ初期状態を指定します。「Normal」「Maximize」「Minimize」「Hide」が指定できます。
```

検索で合致した行の内容表示パラメータの設定

```
[ViewParameter]
TabStop=4                ... タブの幅を指定します。
MaxViewLength=1024       ... 表示する際の行の最大サイズを指定します。
MaxLineLength=16384      ... 検索時の行の最大サイズを指定します。
BackupFolder=xxxx        ... 置換時のバックアップを保管するフォルダを指定します。デフォルトはTemp下に作成されます。
BackupDays=30            ... バックアップを保管する日数を指定します。デフォルトは30日です。
SlightlyMove=20          ... Dupボタンでダイアログを複製する際に、現在の位置からずらして起動します。(デフォルトは 20 ピクセル)
```

ヘルプ (マニュアル)表示の指定

タイトルメニューの「View help.」または「Version: バージョン番号」項目を選択した際のマニュアル表示方法を指定します。

```
[Manual]
Manual=xxxx,yyyy        ... マニュアルファイルを指定します。カンマ区切りで複数のファイルを指定可能です。ファイル名部分には * と ? が使用できます。
MDHelp=txt,md           ... MDHelpを使って表示する拡張子を指定します。デフォルトは txt と md です。その他の拡張子は Windows 設定に従います。
```

- 「Version: バージョン番号」項目を選択した場合は、ReadMe_<本プログラム名>.txt を表示します。
- 「Version: バージョン番号」項目を選択した場合で、[Common]のLanguage項目を設定している場合は、ReadMe_<本プログラム名>_<言語名>.txt を先に検索します。
- 「View help.」項目では、複数のマニュアルが合致する場合に、サブメニュー形式でリストアップします。
- マニュアルファイルの指定では、プログラムフォルダからの相対指定も可能です。
- MDHelp.exeは、本プログラムのフォルダ、または MDHelpサブフォルダの下、または本プログラムフォルダと同じ並びのMDHelpフォルダの下、から検索します。

Gui関連設定

ダイアログ表示に関するパラメータを指定します。プログラムによって書き換えられるため設定ファイルと分離した方が良いです。

ユーザー選択設定

ユーザーが選択した内容を保存します。

```
[UserSelection]
Language=xxxx           ... タイトルメニューの Select language 項目で選択した設定を保存します。xxxx が空の場合は自動選択となります。
```

- LanguageFile が存在しない場合は、タイトルメニューの Select language 項目は選択不可となります。

ダイアログ表示パラメータの設定

ダイアログ表示に関するパラメータを指定します。

```
[WindowParameter]
Margin=4                ... ダイアログのアイテム間のマージンを指定します。
```

フォントの指定

ダイアログの表示に使用するフォントを指定します。タイトルメニューの「Select window font.」で変更できます。(再実行で反映)

```
[WindowFont]
Height=12
```


Width=0
Escapement=0
Orientation=0
Weight=0
Italic=0
Underline=0
StrikeOut=0
Charset=1
OutPrecision=0
ClipPrecision=0
Quality=0
PitchFamily=0
FaceName=xxxxx

ダイアログの表示位置の記録

ダイアログの表示位置を保存します。

[ViewDialog]	
WindowRect_L=133	... ダイアログの左端座標です。
WindowRect_T=373	... ダイアログの上端座標です。
WindowRect_R=1217	... ダイアログの右端座標です。
WindowRect_B=976	... ダイアログの下端座標です。

End
